

[調査研究]

佐賀県内におけるオズウイルス感染症の実態調査

ウイルス課 南亮仁 岸川恭子 松延富与子 吉田健人 笠原慧梨 川内保典 田中葉子 松雪星子

キーワード:オズウイルス ダニ媒介性感染症 マダニ

1 はじめに

オズウイルスは2018年に初めてマダニから分離され¹⁾、野生動物での国内分布は予測されていたが²⁾、世界的にヒトでの発症や死亡事例は確認されていない。

しかし、2023年6月にマダニに咬着され、心筋炎で亡くなった患者が初めてオズウイルス感染症と診断された³⁾。

オズウイルスがマダニから分離されていること、オズウイルス感染症患者にマダニの咬着が認められたことから、マダニがオズウイルスを媒介した可能性が考えられているが、症例が1例だけであり、感染経路は明らかになっていない。

オズウイルス感染症は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)の対象疾患になっておらず、国内の実態把握が困難となっている。

そこで、本研究ではダニ媒介感染症が疑われた症例について、遺伝子検査を実施し、佐賀県内におけるオズウイルス感染症の実態解明を目的として調査を行ったので報告する。

2 材料

令和4年度及び令和5年度に感染症法第15条の規定により、県内の各保健福祉事務所がダニ媒介感染症を疑い、当所に搬入された検体の内、つつが虫病、日本紅斑熱及び重症熱性血小板減少症候群が陰性であった48名の患者から採取された合計101検体を対象とした。

検体の内は、皮膚病巣14検体(痲疫13検体、その他1件)、血液46検体、血清41検体であった。

3 方法

国立感染症研究所で作成されたOZV Real-time RT-PCR簡易マニュアル(ver.4.2)に基づき検査を実施した。

4 結果及び考察

今回の調査では、すべての検体からオズウイルスの遺伝子を検出することはできなかった。

マダニによる咬傷が認められる皮膚病巣の検体は14検体しかなく、今回の調査で、本県においてオズウイルスが存在しないということにはならない。

また、オズウイルスの病態は明らかになっておらず軽症例や他疾患との重複感染の可能性も含めた今後の調査の実施が必要と考える。

5 参考文献

1. Ejiri H, et al., Virus Res 249: 57-65, 2018
2. Tran NTB, et al., Emerg Infect Dis 28: 436-439. 2022
3. 峰宗太郎ら, IASR Vol.44 p109-111:2023年 7月号